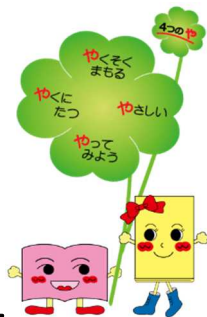


図書館だより

NPO 法人はまでら 4 つのや図書館

第 88 号 令和 5 年(2023) 3 月 1 日



「本と人、人と人をつなぐ図書館」～さわやかなひととき～

館長 由良 芳子

全国各地の会員の皆様、いかがお過ごしですか。大阪でも、寒波到来の1月でしたが、さすがに2月4日の立春過ぎてからは、空気、木、花などに少しずつ春を感じるようになりました。「俳句きりり十選」に挑戦された方々は、兼題を知った1月から春風を探しておられたことでしょうか。17音で情景や心の内を表現する俳句は、作る人も読む人も、それぞれに想像を膨らませる楽しさがあります。気楽な気持ちで、ぜひ挑戦してみてください。



次に、最近の「本と人、人と人をつなぐ図書館」を紹介します。

ある水曜日の午後、小学校1年生女児が、図書館へ飛び込んできました。「いぬの本、貸してください!!」と声を弾ませています。「きのうのきのうに、チワワの子犬がやってきたの。」と嬉しそうな表情。ゆっくりと話を聞くと、犬の飼い方、育て方を知りたいのだとわかりました。たまたま図書館にいて、その話を聞いた幼稚園児のお母さんたち2人が、書棚から、それぞれ本を探し出し、自分の子どもたちに手渡して耳打ち。2人の幼稚園児から1年生のお姉さんに本が渡されました。心温まる可愛いセシモニーのようでした。書名は「友だちは白い犬」「小学館の図鑑 NEO 飼育と観察」。1年生のお姉さんは早速、図書カードを取り出して2冊借り、本を抱きしめて帰っていきました。現在は、「お手!」のしつけの最中で、借りた本が役に立っているとのこと。

たまたま、図書館に居合わせたお母さんたちの優しく機敏な行動はまさに、「やくにたつ」の「や」、「やさしい」の「や」であり、同時に「本と人、人と人をつなぐ図書館」を実感した、さわやかなひとときでした。

さて、当図書館では、この3月末で2022年度が終わり、4月から2023年度が始まります。

次年度も、皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

『わたしのお気に入りの一冊』

ご自分のお気に入りの一冊を紹介しあうコーナーです。

書名：『人間の死に方』 著者：久坂部羊（幻冬舎新書）
一紹介者：三原 昌代さん（堺市西区）



この本は、電車の中やカフェでは読めない。読むことをお勧め出来ない。それは、タイトルが怖めなので周りの人にひかれるからではなく、急に吹き出して笑ってしまうからです。

内容は、お父様輝義氏の最期にまつわる話が主であるが、お父様が独特な考え方をもちユニークで素敵に描かれている。

まず、不謹慎だが笑えたのが、がん告知。普通なら頭が真っ白になったとか涙が止まらないなど、多くの人はショックを受けるだろう。ドラマではそんな感じで見せ場シーンに使われる。

それを輝義氏は「しめた！これで長生きせんですむ」と喜ぶ。なんて人だろう。

がんの検査も治療も拒否された。でも、命を粗末にするでもなく自然に任せることにされる。医師として人の生死を見てきたからこそわかる高齢者の精神的身体的苦痛を避けたいとの思いもあるだろうが、これは強い信念が元々あるから出来た選択だろう。そして、どういう感じで病は進行していくのか、興味深く読み進んでいった。

やがて、時を経て輝義氏は認知症を患う。これもまた名台詞が満載で「今日は神様と会議をしてる。」とか「マッカーサー元帥が来てはるんや」などと言われ、笑わせて頂いた。やはり、認知症は笑いに変えていける方が本人も介護者も良いのだと認識させてくれた。

こんなドラマが町内で起こっていたのかと思うと、驚きの中にも親近感を持って読めたし、また、他の家族にも人の数だけ様々なドラマがあるのだと思った。

年齢に依っても違うだろうが、病気や死に対して覚悟をもてば、心が安らかになる。そして、「小欲知足」「無為自然」を心に留めることが出来たら、必要以上に死を恐れることもなく、楽しんで生きていけることを教えてくれた。

『備えあれば・・・』訓練の大切さ

『浜寺校区自主防災訓練』 防災・避難ウォーキング 2023年1月29日(日)

よく晴れた冬の朝、浜寺校区自主防災訓練が実施されました。

浜寺小学校が改築工事中で例年のような訓練が行えないため、今年度は浜寺南中学校まで約2kmの『避難ウォーキング』となりました。浜寺三光会館を出発し、クイズの答えやポイントに立つ誘導スタッフが付けているアルファベットをカードに記入しながら歩き進め、ゴールの浜寺南中学校で答え合わせをしました。

ポイントのクイズやアルファベットは、浜寺小学校5年生が考え、作成しました。浜寺南中学校の体育館には、同じく5年生が作成した啓発ポスターが掲示され、ゴールした参加者たちが熱心に見入っていました。また浜寺南中学校の『浜南レスキュー隊』（今回は生徒会と柔道部）は、地域の人とともにポイントに立って参加者の誘導をしたり、ゴール地点で起震車体験の説明などを行っていました。小学校・中学校と地域が連携した意義ある訓練でしたが、何よりも地域の方たちの意識の高さに驚きました。スタッフを含め180名の方がウォーキングやクイズを楽しみ、またほとんどの方が『非常持出袋』を背負って参加されていて、ゴール地点での中身点検では熱心に話を聞いていました。

堺市内でも海のそばに位置する浜寺校区は、毎年『自主防災訓練』を実施しており、多くの方が参加されます。代わり映えしないとも言われる訓練でも、地道に続け、時に振り返り、積み重ねることで、住民の方々の意識にも刷り込まれていくのだと思います。そしてその意識はそのまま高い地域力として発揮されているのだと感じました。

(スタッフ赤堀)



『浜寺校区文化会館 消防訓練』

2023年2月9日(木)

地域の子育て活動の拠点となっている校区文化会館で消防訓練が実施されました。この会館は、『はまでら4つのや図書館』として利用している会館でもあります。

この日は校区の子育てサロン『おもちゃ図書館』の開館日で、遊びに来ていたママやお子さまたちも参加・見学をしていました。

俳句ができたよ・きりり十選 八十八号
令和五年三月一日

兼題「春風」

- 春風は迷える心の道しるべ
- 春風も服に入れば嫌われて
- 春風よ天まで運べこの悔いを
- 春風は時には憎し花粉症
- ブレハブの校舎の待ちし春の風
- 春風や心弾んで前向きに
- 春風や結末に子ら笑ひ合ひ
- 願い事吸い込むポスト春の風
- 母と子の読み継ぐ絵本春の風
- 記録懸けりんくう目指す春マラソン
- 富士の山菜の花遠くに眺めをり
- 足鍛ふ待ち遠しきは春の旅
- 初午や熊手先行く家族連れ
- 水郷ゆく舟ゆくりと春の風

次回(五月)の兼題は
「柏餅、粽、葛餅など夏の和菓子」
または自由

*投句締切 四月五日(水)

芳子 文浩 勝子 ひとみ 和之 雅 勝義 忍 直子 昭義 幹子 コウ子 彩乃 怜奈

2023年3月・4月・5月の開館日時

どなたでもご利用いただけます。

◎水曜日14時～17時

3月: 1日・8日・15日・22日・29日(休)

4月: 5日・12日・19日・26日

5月: 3日(休)・10日・17日・24日・31日

◎木曜日10時～17時

(第2・第4木曜日 12時～)

3月: 2日・9日・16日・23日・30日(休)

4月: 6日・13日・20日・27日

5月: 4日(休)・11日・18日・25日

2023年度 NPO 会員募集

2023年4月～2024年3月の会員を募集しています。図書館でも受け付けます。ご支援よろしくお願い致します。

協力会員 1口1,000円/年

賛助会員 1口3,000円/年

正会員 1口5,000円/年

口座名: NPO 法人はまでら4つのや図書館

◎ゆうちょ振込先 00950-9-171544

できるだけATMをご利用ください。

◎楽天銀行 支店番号 253

普通 7225222

*会員種類をご記入・ご入力ください。

↑なんば方面
204
はまでら4つのや図書館
南海本線
阪堺電気軌道
船尾
AEON
↓和歌山駅 関西空港方面

公式LINE⇒

URL yottunoya-library.com
Mail vottunova@hotmail.com

所在地: 〒592-8348 堺市西区浜寺諏訪森町中1丁103-1(浜寺校区文化会館内) 南海本線諏訪ノ森駅東側線路沿北へ

連絡・・・《警報(大雨、暴風、地震、津波、他)が発令されたときは、図書館は休館します。》

2023.3月の新着本より

当月の新着本のリストと紹介文の一部は図書館受付に掲示しています。ホームページにも掲載しています。

2023.4月の新着本より



《著者寄贈》
ホットプレート よ〜いどん!
 さいとう しのぶ
 キャベツさんににんじんさん、ピーマンさんにぶたにくさん。
 「選手」たちがホットプレートにやってきて、いっせいに「よ〜いどん!」と飛び込んだら!? 『あっちゃんあがつく たべものあいうえお』(リーブル)やコードモエのえほん『じかんだよー!』などでおなじみ、食べ物の絵本の第一人者・さいとうしのぶさん最新作。
 コロナ禍を経て人気沸騰中の「ホットプレート」を舞台に、あつあつ&おいしいレースが始まります♪

ゆるっと歩いて草や花を観察しよう! すごすぎる身近な植物の図鑑 鈴木純

『すごすぎる天気図鑑』に続く「すごすぎるシリーズ」、今回のテーマははずばり「植物」です。なかでも、とくに「身近な植物」「どこでも・誰でも観察できる植物」にスポットを当て、知っていそうで意外と知らない植物のトリビアや豆知識を紹介。また、単なる知識だけではなく、その植物の「見つけ方(探し方)」と「観察方法(見方、楽しみ方)」が詳しくわかるという、今までにない観察図鑑です。



いろいろな角度から撮影した豊富な写真と、イラストや図などで、身近な植物についてしっかりかつ楽しく学べる内容となっています。葉っぱ、花、種、鳥、昆虫といったかわいいうちと一緒、身近な植物の世界へGO!

ぼく モグラ キツネ 馬 チャーリー・マッギー/川村元気

8歳の子どもから、80歳の大人まで。圧巻のイラストで読む、人生寓話。

「イギリス人のイラストレーターが初めて描いた本が、ニューヨークタイムズベストセラーで1位になったと聞いた。いったい、どんな本なのだろうか?」と思い手に取ると、ひと目で魅了された。ペン1本で描かれた圧巻のイラストと、すべての人生に寄り添う言葉。英米を席卷したこの圧倒的なデビュー作が、日本でも多くの人に読まれますように!

川村元気

「うっかり読み聞かせすると、途中から出てくるのは言葉ではなく涙です」
 ブレイディみかこ

少年とモグラ、キツネ、馬の冒険と心の交流を美しいイラストとともに描いたアート絵本



あんまりすてきだったから くどう れいん/みやざき ひろかず

歌手のうたごえがあんまりすてきだったから、こんちゃんはお手紙をかきました。こんちゃんの心のこもったお手紙をはこぶゆうびんやさんは、なんだかうれしくなって、くちぶえをふきました。くちぶえをきいたやまめは、なんだかうれしくなって、しぶきをあげてはねました。こんちゃんのうれしい気持ちが、ふしぎとみんなに伝わって…。



すてき!と思った人にはお手紙を出しましょう。うれしい気持ちがどんどん広がる、くどうれいん初めての絵本。

ソノリティ はじまりのうた 佐藤いつ子

吹奏楽部というだけで、合唱コンクールの指揮者を任されてしまった中学1年生の早紀(さき)。内気な彼女が、天才ピアニストの幼なじみ、合唱練習に来ないバスケット部のエースなど、個性的なクラスメイトたちとの関わりを通じて自分を解放していく。しかし本番直前、思わぬアクシデントが起こり…



仲間とともに何かをつくりあげる達成感、悩みもがきながらも「自分らしさ」を模索する中学生たちの内面、みずみずしい人間ドラマをまっすぐ描いた、珠玉の成長物語。

湯道 小山薫堂

建築家として独立した三浦史朗だが、最近仕事がつまみかない。実家の「まるきん温泉」は父亡き後、弟の悟郎が継いでいる。時代遅れの銭湯を畳んで、不動産で儲けようと考えた史朗は、父の葬式にも帰らなかった実家を久しぶりに訪れるが、犬猿の仲の兄弟、人気者の看板娘、そして常連客。彼らの人生を描いた、笑って泣いて心が整う感動の物語。

月の扉 石持 浅海

沖縄・那覇空港で、乗客240名を乗せた旅客機がハイジャックされた。犯行グループ3人の要求は、那覇警察署に留置されている彼らの「師匠」を空港まで「連れてくること」。ところが、機内のトイレで乗客の一人が死体となって発見され、事態は一変。極限の閉鎖状況で、スリリングな犯人探しが始まる。



ぱちぱち おめでとう ひろゆた(新井洋行+中垣ゆたか)

「手をたたいて、大きな声でおめでとうって言ってね。せーの!ぱちぱちぱち…」ページをめくると、おめでとう!っていろいろなものが現れるよ。こどもといっしょに手を動かしながら楽しむ、誕生日のアクション絵本。
 ひろゆた(新井洋行+中垣ゆたか)の絵本第2弾、二人だからこそ楽しい世界が広がります。



まじよばーのたまごやき 堀 直子/木村いこ

まじよばーは、病気で亡くなったばかりのお母さんのお母さん。優しくお母さんとは段違いで、ぼくとお父さんのアパートにしょっちゅうやってきては、ぼくの勉強のことや、たまった洗濯物について、がみがみいう。ある日、まじよばーは「うたをひきとらせてもらいます。」とお父さんに言った。お父さんと離れたくないぼくは、自分なりに考え、自分でできることはちゃんとできるように、精一杯努力した。だけど、まじよばーは納得しない。そして、まじよばーと「たいけつ」することになり……。

よろしくパンダ広告社 間部 香代/三木 謙次

広告社って、なにをする会社か知ってる?商品のCMやポスターなどの広告を作る会社なんだ。なかでも広告の言葉は、みんなを元気にしたり、気持ちを結びつけたり。そんな魔法の力を持つ言葉と格闘する、ぼく、パンダ広告社の本田パンダです。

銀河鉄道の父 門井 慶喜

数多くの傑作を残した宮沢賢治。その父・政次郎との究極の親子愛を描いた第158回直木賞受賞作。

政次郎の長男・賢治は、適当な理由をつけては金の無心をするような困った息子。政次郎は厳格な父親であろうと努めるも、賢治のためなら、とつい甘やかしてしまう。やがて妹・トシの病気を機に、賢治は筆を執るも――。

虹にすわる 瀧羽 麻子

椅子作りの才能があるのに、地元で修理屋をしている徳井。椅子への情熱を持って余り、都会の大手工房を飛び出した魚住。タイプの違うふたりが、学生時代の約束のもと、小さな工房を始める。不器用な彼らは、友情でも恋でも仕事でもギクシャク……。海沿いの町の小さな椅子工房で夢の続きを見ることにした「こじらせ男子」の、胸アツ青春物語。

おにぎりに はいりたいやつ よっといで 岡田よしたか

おさらのうえで、おにぎりたちが話しています。「ぼくら、ぐ、いれてもらってないねんなあ」「ぐ、ほしいな。みんなでさがしにいこか」――。おにぎりたちは具になってくれる食材を求め、旅に出ることにしました。読後、おにぎりが食べたくなる楽しい絵本。読者参加型の遊び心溢れる構成にも注目です。



くまのピエール 伊・パング・ルセ/菱木晃子

ピエールは、スティーヌの家で暮らす小さなくまのぬいぐるみ。はじめて見た月を、硬貨と間違えて取りに行こうとしたり、雪玉のなかに閉じ込められてしまったり、バイクのタイヤを坂だと思ってひたすら登り続けたり……。勘違いから、いつもおかしなハプニングを巻き起こすピエール。これは、そんなおとぼけ屋のくまの、ゆかいな日々のお話です。

いつもの木曜日 青山 美智子/田中 達也

2021年、2022年本屋大賞2位受賞作家・青山美智子さんが贈る『木曜日にはココアを』に繋がる温かな物語。累計26万部を突破した『木曜日にはココアを』。その12編の物語に登場したワタル、朝美、えな、泰子、理沙、美佐子、優、ラルフ、シンディ、アツコ、メアリー、そしてマコ。これは彼、彼女たちがあの日に出会う前の物語。そんな前日譚を田中達也さんが作ったミニチュアとともに読む、絵本のような小説です。カップにココアが注がれるその瞬間を味わってください。

『日本製』 三浦 春馬

「日本全国47都道府県を訪れたことはありますか?」月刊誌『プラスアクト』の人気連載として、まだまだ知らないことだらけの「日本」を三浦春馬とともに見つめてきた『日本製』が、新たに撮り下ろしとロングインタビューも加え、408ページにも及ぶ超大作として堂々完成。書籍化にあたり三浦自ら日々を振り返り書き添えた直筆コメントや、この本を持って全国を巡りたくなるような構成は必見。約4年間の「日本製」旅における三浦春馬の成長も垣間見られるアルバムのような1冊としても楽しめる。ずっとそばに置いておきたい永久保存版!